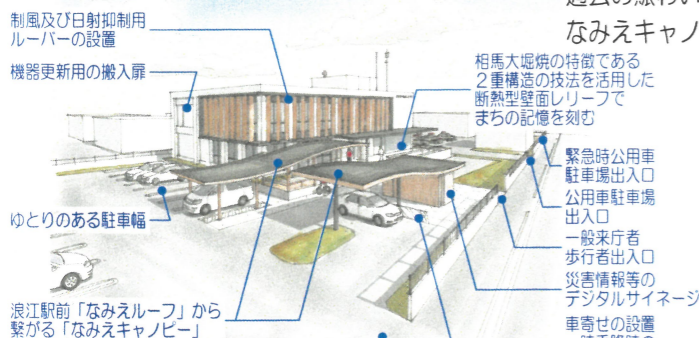


双葉警察署浪江分庁舎改築工事基本・実施設計業務委託公募型プロポーザル

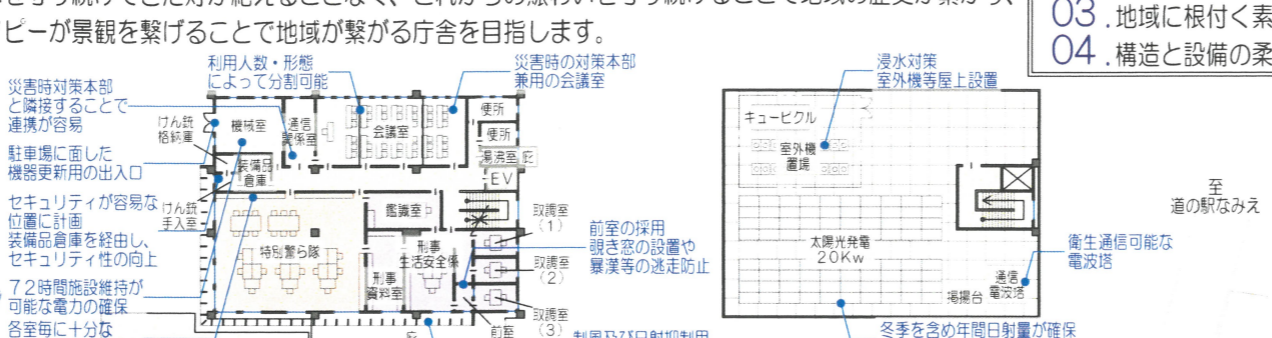
堅牢さと多様な柔軟さを兼ね備え、歩みのキセキが未来に繋がる双葉警察署浪江分庁舎

過去の賑わいを守り続けてきた灯が絶えることなく、これからの賑わいを守り続けることで地域の歴史が繋がり、なみえキャンピーが景観を繋げることで地域が繋がる庁舎を目指します。



配置計画
RC造2階建てのシンプルな庁舎とし、北側隣地に配慮しつつ、敷地中央北側へ配置することで、敷地に周辺環境同様のゆとりが生まれ、来庁者の明確な歩車道分離、公用車の動線分離が見通しが確保され、来庁者及び職員の利便性及び安全性に配慮します。

施設イメージ
相馬大堀焼の特長である2重構造の技法を活用した断熱型壁面シェリーフでまちの記憶を刻む

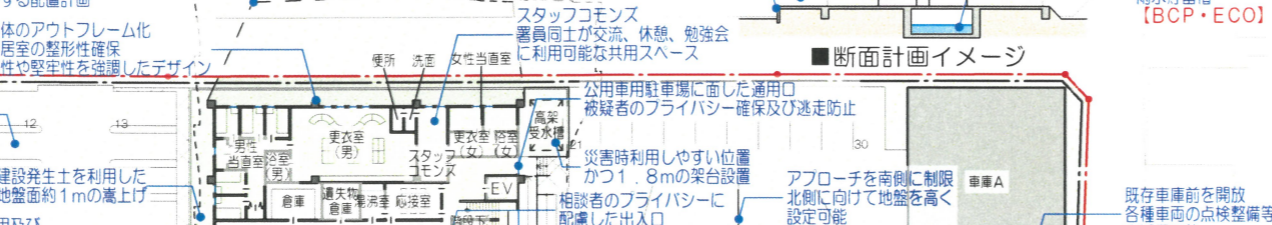


2階平面計画イメージ
BIMの活用・日影線の検討隣地への影響を計画減少する配置計画

断面計画イメージ
建設発生土を利用した地盤面約1mの嵩上げ

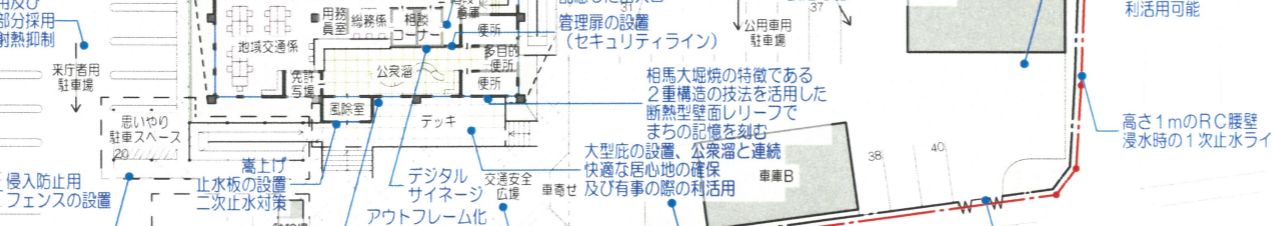
平面計画
公衆溜に面して窓口業務を配置し、来庁者の利便性に配慮します。被疑者及び職員は通用口を活用し、利便性、プライバシー確保及び逃走防止を担います。

立面・断面計画
綿密な階高の設定により、周辺環境に馴染み、日影の影響を最小限にする低層の庁舎とします。また、構造体のアウトフレーム化により、堅牢さ、規律性を強調します。なみえキャンピーが「なみえルーフ」からの景観の連続性を確保し、地域を繋げます。



設備計画
災害時にも業務継続が可能な多種多様なインフラのバックアップを確保します。維持更新性を考慮した汎用性のある高効率機器を選定します。

コスト対策
無駄のないバランス良い構造体の配置、基本設計の各段階からBIMを活用し、詳細な概算金額の把握によるコストコントロールを徹底します。



01 県民の利便性に配慮し、必要なセキュリティが確保された庁舎の提案

明確な動線の分離による利便性の確保

- 歩行者及び車両動線を明確に分離します。また、来庁者用及び公用車用駐車場も明確に分離、来庁者の利便性と安全性を確保します。
- アプローチを南側に制限することで、監視を容易にし、セキュリティを確保します。
- 1階主玄関廻りに窓口部門を集約することで、移動距離を短くし、来庁者の利便性及び防犯上の視認性を向上します。

02 県民の安全・安心の拠点となる庁舎の提案

建設発生土や困障を活かした多重の浸水対策

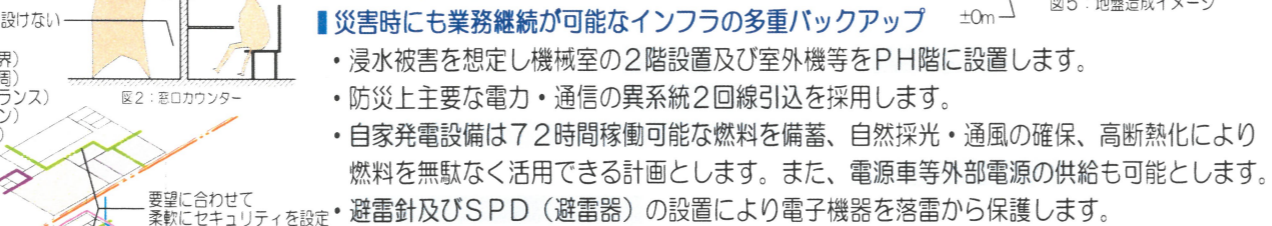
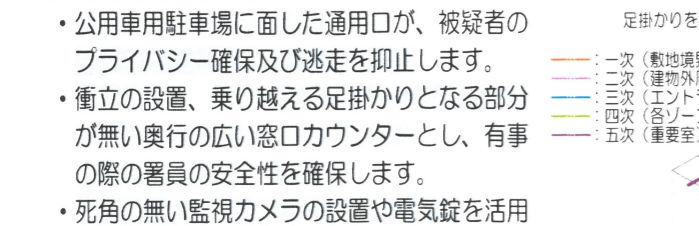
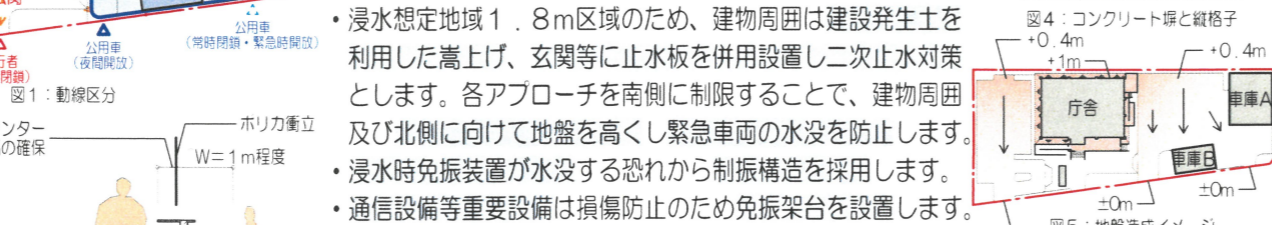
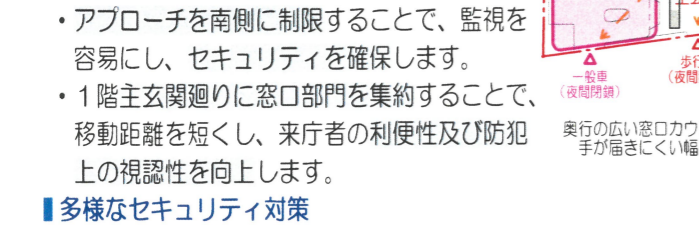
- 敷地外周に1mのコンクリート塀と縦格子のフェンスを設け、侵入・逃走防止、車両突入対策とし、縦格子は視認性を確保します。門扉に止水板を併用設置し一次止水対策とします。
- 浸水想定地域1.8m区域のため、建物周囲は建設発生土を利用した嵩上げ、玄関等に止水板を併用設置し二次止水対策とします。各アプローチを南側に制限することで、建物周囲及び北側に向けて地盤を高くし緊急車両の水没を防止します。
- 浸水時免振装置が水没する恐れから制振構造を採用します。
- 通信設備等重要設備は損傷防止のため免振架台を設置します。

多様なセキュリティ対策

- 公用車用駐車場に面した通用口が、被疑者のプライバシー確保及び逃走を抑止します。
- 衝立の設置、乗り越える足掛かりとなる部分が無い奥行の広い窓口カウンターとし、有事の際の署員の安全性を確保します。
- 死角の無い監視カメラの設置や電気錠を活用したセキュリティゲートを設置し、敷地外周から内部に向け段階的にセキュリティレベルを向上します。セキュリティ扉の採用により、要望に合わせてフレキシブルに対応可能です。

災害時にも業務継続が可能なインフラの多重バックアップ

- 浸水被害を想定し機械室の2階設置及び室外機等をPH階に設置します。
- 防災上主要な電力・通信の異系統2回線引込を採用します。
- 自家発電設備は72時間稼働可能な燃料を備蓄、自然採光・通風の確保、高断熱化により燃料を無駄なく活用できる計画とします。また、電源車等外部電源の供給も可能とします。
- 避雷針及びSPD(避雷器)の設置により電子機器を落雷から保護します。
- 無線通信アンテナに異常が発生した際のバックアップ用に衛星通信アンテナを設置します。
- 受水槽を設置し断水時にも利用可能とします。また、浸水対策として高架式とします。
- 給湯熱源は備蓄可能なLPガスを採用する等、熱源の多重化を図ります。
- 故障時、施設全体の給湯使用不可回避のため、中央式ではなく個別給湯方式を採用します。



- 01 .セキュリティが担保され利便性の高い信頼と安心に繋がる庁舎 **堅牢さ**
- 02 .災害時にも「守り」が途切れず安心と安全に繋がる庁舎
- 03 .地域に根付く素材と技術を活かした人と環境が繋がる庁舎 **多様な柔軟さ**
- 04 .構造と設備の柔軟な計画を基に将来の変容性と更新性に繋がる庁舎

技術提案書(様式5)

※印の欄は記入しないでください

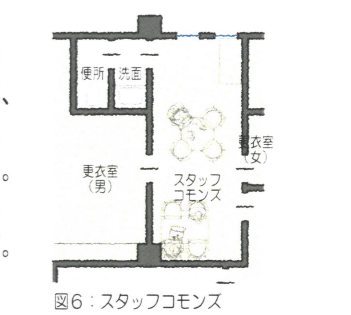
受付番号

3

03 .人にやさしく環境に配慮した庁舎の提案

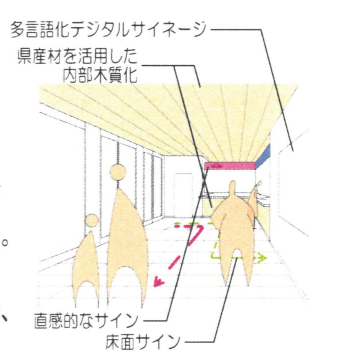
ウェルビーイングな庁舎

- 多種多様な属性の来庁者や職員の誰しもの使いやすい、段差のないアクセスや引戸等ユニバーサルデザインをはじめ、当直室の個室化、職員同士の情報共有や勉強会・リフレッシュエリアにも活用可能なスタッフ commons等積極的にダイバーシティデザインを採用します。
- 来庁者が目的の場所に行きやすいよう、直感的なサイン、多言語化デジタルサイネージ、床面サインや視認性の高い色彩計画とします。
- 県産材を活用した内部木質化を図り、温かみのある空間を形成し、地域産業の振興と環境負荷の低減を図ります。



地域環境を考慮したNearly ZEBを実現する庁舎

- 相馬大堀焼の二重構造の技法を活用、RC外断熱(親水性塗装)を採用することで躯体蓄熱及び高断熱化を図り、メンテナンスに伴うランニングコストを低減し省エネを実現します。
- 冬季を含め年間日射量が確保され、冬季の阿武隈高地からの西風が強いことから、日射抑制および制風のためのルーバーを設置します。
- 雨水貯留槽を設置し、便所洗浄や屋外散水等に利用します。
- 使用量の多い石膏ボードやガラス等にリサイクル建材を積極採用し、ライフサイクルコストの低減及び排CO2削減に繋がります。
- ライトシェルフより自然光を活用し、昼光センサーや人感センサーの設置、タスクアンビエント照明を採用し電力消費を抑えます。
- 執務室は高効率のAHU+個別パッケージ空調(ビル用マルチ)等各室の特性に応じた高効率機器を採用し省エネを実現します。
- 設計チーム内ZEBプランナーの見解を活かし、綿密な協議、基本設計から概略省エネ計算を実施、Nearly ZEBを実現します。
- Nearly ZEB化によりコストアップが見込まれることから、基本設計段階よりBIMの活用により詳細な概算金額の把握によるコストコントロールの徹底及び日射調整等の環境シミュレーションを実施、省エネ及びコスト低減に繋がります。



04 .社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎の提案

社会環境の変化による将来の室の可変性を考慮した庁舎

- 構造形式は、柱・梁をバランス良く配置することでコストを抑えたRCラーメン構造、スクルトン・インフィルを採用します。また、十分な開口面積を確保した自然排煙での計画及びアウトフレーム化した構造体により整形で使い勝手の良い可変性のある室とします。
- 横長型の会議室は可動間仕切壁等の採用により、使用用途に応じた分割が容易、災害時は対策本部として転用することが可能です。
- DX化を踏まえ、壁面をスクリーン及び白板として活用することで、災害時に他の警察署や関係機関との情報共有の一元化が容易です。
- 設計チームは公共から民間工事まで幅広く実績を有するメンバーで構成されます。その実績を活かした柔軟な計画が可能です。

設備機器の耐用年数による維持更新性を考慮した庁舎

- 各階高の綿密な設定により梁貫通設備を最小限にし、天井懐内配管及び乾式二重床の採用により、設備の更新性に配慮します。
- 主なPS・EPSを共用部に配置し、予備点検スペースを付加設置することで機密情報の多い執務室に外部作業員が極力立ち入らずに点検・更新が可能な計画とします。
- 汎用性が高い機器類の選定により、維持管理や更新を容易にします。
- 大型機器類が設置される機械室は来庁者用駐車場に面する搬入扉の設置により機器の更新性を確保します。

